

# 公益財団法人アイメイト協会

## 平成27年度(2015) 事業報告

平成27年4月1日 ～ 平成28年3月31日

### 1. アイメイトの育成訓練及び研究開発

#### (イ) 【候補犬の訓練】

	訓練内容	適要
1 ヵ月	性格・素質判定と健康管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 性格並びに素質を観察</li> <li>◇ 健康診断の後、健康上問題のない適性犬は、避妊或いは去勢手術・各種ワクチンを接種。</li> </ul>
4 ～ 5 ヵ月	基礎訓練	アイメイトとして必要な課目を教え、服従心と学習への態度の基礎を作る。
	誘導訓練	ハーネスを付け盲人の歩行時の、障害となるもの、又は危険な物を告知し、或は回避する訓練
	仕上げ及びテスト	指導員が目隠しをして、訓練の完全度をテストする。
4 週間	歩行指導	アイメイト使用を希望する視覚障害者4名1クラスを原則に、宿泊により指導する。

#### (ロ) 【種犬の充実と候補犬の質の向上】

候補犬の資質がアイメイトの実績に大きく関わるので、繁殖犬の選定・組み合わせを考慮した。

出産の数・時期等は人為的にコントロールできないので、種牡・台牝の補充を常に念頭に置き、優秀と思われる犬がいる際には購入に注意を払っていたが該当する犬は見当たらなかった。しかし、シーイングアイより種牡候補として成犬のAvaterを譲ってもらった。

### 2. アイメイトによる盲人の歩行指導並びに日常生活指導

#### (イ) 【調査】

アイメイト使用希望者に対しては、アイメイトによる歩行指導の可否を判断するため面接調査を実施した。また、使用希望者の質疑に答えたり、実際にアイメイトとの歩行体験をさせたりする事により、安心感を持たせることに努めた。

ペットではないことを理解し、共生して生活することが可能な人であるかを判定する事も大切である。最終的には、アイメイトを使用することにより『積極的に社会参加を目指す意欲』があることが重要ポイントとして調査した。

## (ロ) 【歩行指導実施状況】

回数	期	人数	期 間
1	432	4	'15. 4. 04 ~ '15. 5. 02
2	433	3	'15. 05. 09 ~ '15. 06. 06
3	434	4	'15. 06. 13 ~ '15. 07. 11
4	435	4	'15. 09. 06 ~ '15. 10. 03
5	436	3	'15. 10. 10 ~ '15. 11. 07
6	437	4	'15. 11. 14 ~ '15. 12. 12
7	438	4	'16. 1. 09 ~ '16. 2. 06
8	439	4	'16. 2. 13 ~ '16. 3. 12
計		30	

## (ハ) 【歩行指導内容】

入 校 (土曜日)		
視覚障害者への	盲人の歩行状態テスト 性 格 観 察	チェーンカラー・引き紐・ハーネスの扱い方、 指導員によるハーネス歩行
	ペ ア 決 定	
	各人の犬を決定し、パートナーを作るが犬と人の性格の一致が重要である。	指示語、誉め方・叱り方と意義・ハーネスの付け方 等
歩行指導 (土曜日から4週間)		
歩行指導	歩行指導開始、各週毎に定められたコースを歩く 第一週： 毎日1.6 ~ 3.2km 第二週： 〃 2.1 ~ 4.2km 第三週： 〃 3.4 ~ 6.8km 第四週： 〃 4.8 ~ 9.6km 全体で約 <b>120km</b> の行程をマスターする。 各週末にテストを行い、進捗状況をチェックする。	歩き方の基本及び姿勢、コーナーの練習、 服従、分岐点、人車道の区別、 歩道橋、信号判断の方法、人車道の区別のない道の歩行、ガードレール内の歩行、繁華街、レストラン、エスカレーター、エレベーター、踏切、電車や自動車の利用法、排便の始末、犬のシャンプー、ブラッシング、犬の餌の作り方、体重測定 等
講義内容	犬の管理及び衛生	飼料/内容・作り方・与え方 等 手入れ法/ブラッシング・シャンプー・耳掃除等・犬の歯磨き 等 犬の管理/ 正常、異常の区別、体重測定、投薬、検温、便の始末 等
	アイメイトの使用法	アイメイトの歴史・訓練・指示語・犬の心理及び表情 等。 社会との対応の仕方・アイメイトを使う側のマナー
上記の他にこの期間中、健常者と変わらない状態で生活するように(夜間の点燈、スマートな食事の方法等)指導する。		

## (ニ) 【フォロー・アップ・サービス】

アイメイトによる歩行指導は、視覚障害者の自立と生活の向上を最終目標としている。

卒業生の歩行問題・環境・その他についての質問は、本人から協会へ直接連絡する様に指導した。これは自立にとって大切な行動である。

その質問内容によっては遠近に関わらず訪問指導をおこなった。卒業生の目としてアイメイトが十分に機能することを目指した。

## 3. 生活に関する各種相談及び歩行指導員の養成

### (イ) 各種相談

使用者のあらゆる相談にも応じ、様々の指導を適宜おこなった。

使用者の犬具の整備、飼育・歩行及び管理に就いての相談や指導、本人の病気など特別な事情の場合の犬の預かり、死亡犬の供養、使用者の就職、住宅問題、公共施設の利用・宿泊問題等にも誠意を以て対応した。

### (ロ) 指導員の養成

歩行指導員は現在4名。

H26年度採用決定の5名にはアイメイト協会の精神を理解した、有能で柔軟な思考ができる指導員に育てる努力をしたが、3名のうち1名は7月に、2名は9月に挫折退職した。

残った2名に対しては「犬」を主体と考える風潮の中、視覚障害者への意識も含め、対人教育であるという哲学を主軸に考え、社会人としても視野の広い歩行指導員の養成を継続しておこなっている。

## 4. アイメイトに関する啓発

### (イ) 【啓 発】

アイメイトを使用する環境の整備と向上の為に、一般社会への啓発運動として毎月最終土曜日を見学日として体験歩行も実施した。

企業からの依頼や学校・社協・ロータリークラブ、ライオンズクラブ等の要請にも可能な限り応じ、マスコミ・出版関係にも協力して啓発の促進を計った。

### (ロ) 【広報活動】

アイメイトの理解に役立つ機関誌『アイメイト 47号』の発刊した。その他広報活動を広げ、アイメイトへの理解者及び協力者の拡充を図るように努力した。

ホームページも適宜更新し、人に視点を置いた正しい情報を提供した。協会で作成したDVDも貸し出し或いは頒布し、アイメイト協会の全体像・ポリシーを広めた。

### (ハ) 【アイメイト・デー】

アイメイト・デーは38回をTKPガーデンシティ竹橋を会場に実施。300名近い参加者が会った。

## 5. その他、目的達成に必要な諸事業

### (イ) 【当協会の同窓会・後援会・飼育奉仕・繁殖奉仕者・サポート会の充実】

卒業生の集まりである同窓会は総会・レクレーションの実施。CD通信「ひろば(年4回)」発行をおこなった。

後援会はミニ通信発行や募金活動、チャリティーコンサート、チャリティー・グッズの頒布等を積極的に実施した。

飼育奉仕家庭(リタイア犬飼育を含む)及び繁殖奉仕家庭は、陰の力として大きな支えとなっている。飼育奉仕段階での問題にも積極的に機会を捉えて相談に乗ったり、実際に出向いて候補犬の扱い方をフォローする等、繁殖奉仕者・飼育奉仕者及びリタイア犬の飼育者へ感謝の意を伝えるように対応した。サポート会員も層を広げる努力をした。

アイメイト協会は各協力者の方々と緊密な縦横の連繋を取り、アイメイトの総合的な発展及び啓発活動を行い、アイメイト育成事業の充実を計った。

### (ロ) 【海外の盲導犬育成施設との交流】

5月にI.G.D.F.の査察員が当会の訓練法について変更を強いてきた。彼らの要望している「いつも犬が尻尾を振っている訓練法」を取り入れることは、アイメイトの質の低下と使用者への危険の増加に繋がる。2日間その点を話し合ったが結論には至っていない。

3月に歩行指導部長が繁殖基礎犬Avatarの受け取りにシーイングアイを訪問。その際には訓練・指導・繁殖場視察をした。また歩行指導部長のDave Johnson氏をはじめとするスタッフとも交流した。